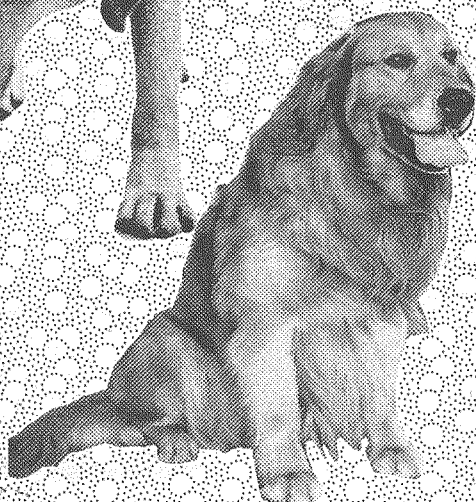




平成お犬様

御三家のモテ方

昔はただの「ボチ」だったのに、最近のイヌ界にはなぜかファッション同様、流行がある。いま、トレンドなのが大型犬だ。一番人気のシベリアン・ハスキー、続くゴールデン・レトリバー、そして盲導犬で知られるラブラドル・レトリバーが御三家といわれる。それもわざわざ人だらけの都会ではやっているというから不思議だ。

クラフト・ドッグショーといえば、英国で一番人気があるイヌの品評会。世界中から八万人が集まり、あの「Hanako」でも、「そろそろペットについても、一家言持つときがやってきた」と特集した、イヌのオリンピックのような大会だ。

今年一月の会期中、その会場で奇妙なパンフレットが配られていた。中身は、

「日本人はイギリスの犬を、なんでもかんでも輸入して高く売る」「日本では狭いオリに大きな犬を入れたままにしている」

「日本の悪徳業者に注意」

などの「日本タタキ」文句が数種類にわたってぎっしり。しかも業者の名前や顔、それに店の写真まで入っているものもある。

横須賀市で「ミツコ・ドッグ・トレーニング」を主宰している佐藤美津子さんがいう。

左からラブラドル・レトリバー、ゴールデン・レトリバー、シベリアン・ハスキー

「日本の一部業者は、イヌを絵画と同じように転売する、と評判が悪いんです。三月にロンドン郊外のイヌ訓練所を三カ所、見学に行つたんですが、どこでもまず『日本人？ イヌを買いに来たのか』と聞かれたのには驚きましたね」

それほどこいま「舶来犬」、それも大きな種類のものが日本に集められていたらしいのだ。

ジャパン・ケンネル・クラブ（JKC）の調べでは、九〇年度の人気犬種は、それまで四年間、一位を独占していたシェットランド・シープドッグが三位に落ち、代わってシー・ズーが一位。二位に上がったのが、昨年は六位だったシベリアン・ハスキーだった。ベストテンに入った大きなイヌはハスキーだけだが、十位から二十位には、ゴールデン・レトリバー、グレート・ピレニーズ、ラブラドル・レトリバーと続く。